

1 会議日時

令和8年（2026年）3月11日（水）14時00分～15時20分

2 開催場所

広島市役所本庁舎 14階第7会議室

3 出席委員（5名）

角倉 英明、真木 利江、吉田 幸弘、吉原 俊朗、高田 由美

4 議事

夜間景観のあり方について

(1) 第2回部会における主な意見の確認

(2) 広島らしい魅力ある夜間景観のあり方（骨子案）

5 公開・非公開の別

公開

6 会議資料

【議事(1) 関係】

資料1 令和7年度第2回広島市景観審議会夜間景観検討部会における主な意見

【議事(2) 関係】

資料2 広島らしい魅力ある夜間景観のあり方（骨子案）

7 発言の要旨

【議事の説明】

【部会成立の報告】

【議事 夜間景観のあり方について】

○角倉部会長

それでは早速、議事に移りたいと思う。

「議事(1) 第2回部会における主な意見の確認」について、資料1について事務局からご説明いただきたい。

○地井都市デザイン担当課長

それでは、資料1について説明させていただく。

（資料1について、読上げ）

○角倉部会長

このことについて、何か意見はあるか。

○委員

（意見なし）

○角倉部会長

それでは、続いて、「議事(2) 広島らしい魅力ある夜間景観のあり方（骨子案）」についてである。
資料2について、事務局からご説明いただきたい。

○地井都市デザイン担当課長

それでは、資料2について説明させていただく。

（資料2について、読上げ）

○角倉部会長

この骨子案は、市民に公表された後、肉付けされながら、正式なあり方になる理解でよろしいか。

○地井都市デザイン担当課長

そのとおりである。

○角倉部会長

まず、目次及び全体の構成や整理の仕方について意見はあるか。

○真木委員

目次の構成は、非常に分かりやすくきれいにまとまっていると思う。

全体の構成に関連して事務局に伺いたいのが、資料 p 1 の位置付けにおける景観計画との関係について、今後の構想があったら共有いただきたい。

○地井都市デザイン担当課長

(資料 p 1 に沿って説明)

○角倉部会長

もう少し景観計画との関係性をクリアにした方がいいのではということか。

○真木委員

そのとおりであるが、今後されるということであれば問題ないと思う。

○角倉部会長

私からも気になった点がいくつかある。

まず、6章で参考例が示されている中で、市民の方が目次を見ると、このイメージが先走ってしまう可能性があるので、例えば、目次部分に「具体的なことは令和8年度以降に検討していく。」といった補足情報を追記するなど、市民の方にとって分かりやすい形に整理する必要があると感じた。

そして、全般的に文章が長い。例えば、資料 p 1 2 の2段落目が1段落で1文になっており、内容に異論はないが、読みにくいと感じた。市民の方にとっては、もう少し区切る方が読みやすいかと思うので、最後に全体構成を修文いただきたい。

○地井都市デザイン担当課長

検討させていただき、修正内容を部会長一任で対応させていただきたい。

○真木委員

p 1 9にある整備・誘導イメージについて、ほかに選択肢がないのか議論できたらいいと思う。

先日の社会実験に参加して、すごく考えさせられた。特に河岸緑地は非常に効果が高く、照明の仕方で本当に良くなると感じた。

個人的には、具体的なことは来年度議論できればと思っているが、一方で、原爆ドーム周辺に関しては「厳かなあかり」という言葉で共有していると思うが、もう少し言語化を丁寧にした方がよいと強く思った。例えば、南北軸線上の慰霊碑から原爆ドームへの夜の眺めを今回初めて丁寧に見たが、夜景における平和の灯の大切さというか、火が揺れていて、独特の色温度を持っていて、手前に慰霊碑と原爆ドームがあって、そちらの色温度は調整することが可能なのか、その時にどういう考え方でどの色温度を使うことで、どう見せないのかみたいな議論が来年度できるとよいと思う。

また、p 1 9の整備・誘導イメージで記載されている下側の写真は原爆ドームだけでなく、河岸の全体像でもあり、イメージとしては非常に伝わりやすいと思うが、右上の原爆ドーム入口の写真は意見が分かれる可能性のある照明かと思う。モダンできれいな照明だと思うが、厳かなのかどうかという他のデザインの選択肢がないのか将来的には議論ができた方がよい。そういう意味では、

この右上の写真はイメージが先行して走る恐れがあるので、下の写真だけにするなどの工夫があってもよいと思う。

最後に小さい話にはなるが、p 6 下の景観特性に関する現状の問題点で、「庭園」という文言が適切か気になってしまい、美しい並木緑地が生かされていないだけでもよいと思う。

○角倉部会長

「厳かな」という言葉の言語化の問題をもう少し丁寧にした方がいいということだったかと思う。だからこそ、p 19 の右側の写真を掲載することでミスリードを生み出す可能性があるのでは、注意した方がよいというコメントだったかと思う。確かにそういう誤解がないよう、あくまで骨子案として今後蓄積されるイメージの参考例でよいということであれば、先ほど真木委員から非常に効果が出ていると評価された京橋川の河岸緑地の写真に修正した方が、骨子案の時点ではよいのではと思うが、事務局はいかがか。

○地井都市デザイン担当課長

部会長ご指摘のとおり、今回は骨子案として今後こういった形で資料を作成していくかをお示しすることが主題なので、真木委員ご指摘のとおり、委員のご意見や今後ご議論いただくということ踏まえ、原爆ドーム入口部分をこの段階で示していくというよりは、単純に構成イメージを見ていただくという意味で、部会長からご提案のあった京橋川のリバーフロント地区に差し替えていくことで、事務局としては何ら問題ない考える。

○吉田委員

p 19 右上の写真の差替については私も賛成である。

また、表紙を1枚めくった「はじめに」の下にある写真だが、目指すべき姿といったとらえ方をされる可能性があるのでは、現況写真など注釈をつけた方がよいと思う。

そして、私も真木委員と同じように軸線に対するあかりが気になっており、原爆ドームにおける前回の社会実験の視察内容を含め、相当な議論が必要だと思う。慰霊碑の碑文の照明は火で色温度が低いので、そういう意味では、ドームもそういった色温度に統一して、軸線を強調させるといった手法もあるかと思う。

最後に、p 16 の地区位置図で分けられているが、ゲートパークの中のピースプロムナードは軸線上にあり、2、3年前にゲートパークができたときに新たな軸線の延長として位置付けられた。そのため、ここは今では歴史・文化という括りに入っているが、これは平和公園を含めた平和の延長ではないかと思っている。隣のゲートパークにはお店もあるので、あの辺は恐らくにぎわいだと思うが、夜の軸線を強調する意味では角みたい飛び出しつつも、地区としてピースプロムナードも平和に含めた方がこの地区を見たときに訴えるものがあるのではないかと思う。

○地井都市デザイン担当課長

吉田委員からご指摘のあったピースプロムナードを平和から外している事務局の考えとして、景観計画を定めた後、令和2年に本市が策定した「中央公園の今後の活用に係る基本方針」によって、ゲートパークを中心ににぎわいの空間、川沿いの部分をくつろぎの空間、広島城に向かって斜めの方角を文化を醸し出す空間として定めており、このゲートパークがまさしくにぎわいの空間になると定義している。それに沿って、現在ではP a r k - P F Iによって民間事業者が入られ、吉田委員も述べられたとおりゲートパークは非常ににぎわいを創出している状況にある。このことを踏まえ、このエリア全体を平和にしてしまうと基本方針と齟齬が生じ、現在活動されているP a r k - P F Iの民間事業者の活動に支障が生じる可能性も出てくるかと思う。

エリアとしては歴史・文化になるが、現在の景観計画においても、地区ごとの基本方針の中で留意点を記載している。例えば、原爆ドーム及び平和記念公園周辺地区の中でもE地区と呼ばれる鯉城通りに面したエリアではにぎわいに面しているのでにぎわいを図りつつも、平和記念公園から見える部分は気をつけるよう注意書きを添えている。

そういったことから、今回のゲートパークのエリアでは全体が広島城・中央地区に位置しながらも、中に示す地区ごとの基本方針で、軸線を意識する部分については、平和との兼ね合いやデザインの統一性などを留意するというような文言を入れることで対応していきたいと考えている

○吉田委員

承知した。

○高田委員

p 1 9の写真について、真木委員の指摘に非常に同感しているし、写真を京橋川の写真に変更することについても賛成である。

また、p 1 2について、この基本目標が前回から変更されており、住民だけでなく観光に来られた方の両方に当てはまっており、市民の愛着やおもてなしにもつながり、良い目標になったと感じている。

○吉原委員

全体的には照明が主になることを目指すのではなく、地域の魅力や景観資源を際立たせるライトアップとしてグレアの抑制という方向性でよいが、にぎわい・おもてなしに関しては、照明で統一感のある夜間景観を形成することも可能ではないかと思う。例えば、相生通りなどは高い位置の統一した街路灯で空間的に統一した夜間景観を創出するという方向性は無いのか、このことについて、他の委員のご意見を伺いたい。

○角倉部会長

にぎわい空間でも照明を統一することで、にぎわいと夜間景観を両立できるのではないかというご意見だったかと思う。具体的にはp 9だと思うが、これに対して意見はあるか。

○真木委員

今のご意見についても具体的には来年度以降の話かと思うが、少し前のめりで話すと、私は相生通りみたいな場所は特にコントロールが難しいと感じた。やはり民間の強力な協力がなければなかなか効果的に実施するのが難しいエリアだと思う。河岸緑地は少しのことで大きな効果が出るのに対して、相生通りのように多種多様な光源が元々ある場所は何が可能なのか非常に考えさせられる。

○吉田委員

街路や道路の照明は演出という側面もあるかと思うが、安全性も重要である。特に平和大通りでは最近、自転車道ができたかと思う。今後相生通に自転車道が整備されるのかは分からないが、自転車がスピードを出しながら照明の明るいところ暗いところがあると相当危険な気がするので、そこも注意していかないといけないのではと思う。

○角倉部会長

ほかに意見はなさそうだが、吉原委員、いかがか。

○吉原委員

ありがとうございました。

○角倉部会長

私からも一点気になったのは、p 1 0(5)の住宅地における現状の問題点で、鉛直面の明るさが不

足しているとはあるのは、住宅を明るくするわけにはいかないのに、街路又は樹木など何の鉛直面を明るさが不足しているのか、もう少し分かりやすい記述にした方がいいかと思う。

○地井都市デザイン担当課長

具体的にイメージしているものは、各個別の住宅所有者が、例えば、生け垣や庭の前にある樹木、塀などの鉛直面を僅かなあかりでもよいので照らしていただくと、視界の中に鉛直面が増えてエリアとして安心感ができるのではないかという趣旨で書いている。部会長ご指摘のとおり、誤解のないよう補足の説明を追加させていただく。

○角倉部会長

ほかいかがか。

○真木委員

第2回の部会で議論に上がったおもてなし問題について、本来はおもてなしのみが全体に掛かるため、今後、景観計画に反映していくタイミングがあれば反映するといった話だったかと思うが、具体的に追加説明が可能であれば伺いたい。

○地井都市デザイン担当課長

現在の昼間の景観計画は令和12年が目標年次であるため、通常であれば、この目標年次の数年前から審議会に諮問し改定を行っていく。

しかし、先日の部会において、おもてなしのワードは4つの特性全体に掛かる方がよいのではという意見があり、事務局としても同じ考えであることから、今後は、夜間景観のあり方を取りまとめた後、必要に応じて、景観計画を改定することになるので、今回のあり方に関する諮問とは別に、景観計画の改定に関する諮問を行うこととなる。それによって、夜間景観だけでなく、このおもてなしに関する取扱いについても議論をいただき、令和8年度末までには夜間景観のあり方を取りまとめるので、その後の景観計画への落とし込みなどを踏まえると、最速で令和9年、10年頃にはできるのではないかと考えている。

○角倉部会長

p11における課題の整理の仕方について1点ある。恐らくp5の基本方針に対する答えになっている課題の抽出だと理解しているが、1ページ増やすことが可能であれば、基本方針に対してこういった課題が出てきているといった形で整理をしてもらった方が、市民にとって分かりやすいかと思う。例えば、この平和であれば、平和都市広島を象徴する景観づくりに対する課題としてこういうものが出てきていることが分かりましたといった形で改めて再掲して整理するなどした方が分かりやすいと思ったので、ぜひ整理していただきたい。

○地井都市デザイン担当課長

p5に関しては、現在策定している昼間の景観計画のもので、この流れに沿って夜間景観も整理していくため、分け方としては一緒だが、昼間と夜間で内容が異なってくるかと思う。

○角倉部会長

事務局の意図は理解した。

また、2章における検討の背景という中で、1はこれまでの市の取組、2が世の中一般で行われている夜間景観の現状について記載がされているが、3になると急に「あかり」が出てきており、これはほかのものと並列になりにくいと思う。例えば、最後の部分で8つの原則の設定について論じられており、この部分の導入のつくり方としては、「魅力的な夜間景観の形成に求められるあかりの原則の設定」といった内容にすると市民にとって分かりやすいので、そういったことに注意

しながら整理してもらえると誤解なく伝わるかと思う。

○地井都市デザイン担当課長

対応させていただきたいと思う。

○角倉部会長

それでは特にこれ以上意見等がないようなので、私の方で整理をさせていただく。

まず、前回までの主な意見に関しては、特に修正・追加等の意見はなかった。

続いて、あり方骨子案に関してだが、目次構成と整理の仕方、要は枠組みに対する意見と、内容に関して質疑をいただいた。

目次構成と整理の仕方としては、文章や目次の修正など私が最後に申し上げたようなことが挙げられた。

内容に関しては、真木委員から、景観計画との関係性がよりクリアになることが重要なので、ご留意いただきたいという意見があったほか、「庭園」という呼称が正しいのかという意見をいただいた。また、あり方骨子案のp 19にあるイメージ例が適切かどうかということがあった。特に整備誘導イメージの右上にある原爆ドーム北側からのアプローチの写真に関しては、多くの委員から、この写真の妥当性についての議論が必要なので、今回は注意して写真を選定した方がよいという意見があった。それに対して、部会長の私からイメージの参考例として、具体的には京橋川のリバーサイドの写真に入れ替えることで、委員から同意いただいたと考えている。そのほか、この原爆ドーム周辺に関しては、「厳か」といった言葉に関する言語化をもう少し適正さのある方向に我々が導いていく必要があるので、来年度以降にしっかり議論を行っていくことについて、吉田委員や高田委員も含め、賛同いただけたと考えている。さらに最後、真木委員からいただいた意見として、前回大きな議論になったおもてなしに関する景観計画への反映についてのスケジュール感は、最速で令和9年度頃からになるのではないかと事務局から回答があった。

続いて、吉田委員からは、表紙裏側の「はじめに」の下部に示されている写真が誤解されないようキャプションの追加や写真を見直すなど対応が必要との意見があった。また、資料館や慰霊碑、ドーム、さらにその先のゲートパークにつながる軸線のあかりに関しては、しっかりと議論を進める必要があると意見があった。平和の延長ということで、ゲートパーク側に食い込む方が適切か分からないが、飛び出す形で形成される軸線のあかりも慎重に考えてみてはどうかということ。又は、エリアとしての位置付けをもう少し検討してはどうかという意見があった。そして、先ほどの街路灯の照明に関連し、安全性という側面が重要視されるので、来年度以降、議論する上で大事に扱っていくことについて意見があった。

続いて、吉原委員からは、にぎわいについて意見があった。グレアの抑制については理解するが、街路灯等含めた照明の統一によって、その場所の景観づくりが実現できるのではないかと意見をいただいたが、これに関しては、具体的な計画についての検討なので、令和8年度以降の議論になると整理した。

ついで、全体を通して、街路灯を含めてにぎわい空間としての「あかり」の話や、特にp 19のイメージ部分、平和の軸線に関する議論、「厳か」の言語化について、そして、おもてなしの計画への修正・反映といった話が主に出た内容かと思う。

○地井都市デザイン担当課長

今後の予定として、ご議論いただいた「広島らしい魅力ある夜間景観のあり方(骨子案)」については、3月26日に開催予定の広島市景観審議会に調査・検討結果としてご報告いただき、景観審

議会委員の皆様でご議論いただいた上で、景観審議会から本市へ中間報告をしていただく。

そして、来年度の早い時期に市議会へ報告の上、市民意見募集を行いたいと考えている。

その後、市民意見募集の結果を踏まえ、必要に応じて骨子案を修正し、次回の部会では、骨子案では項目出しに止めていた第6章の部分などについて、ご議論いただく予定としている。

それでは本日の審議を以上で終了とさせていただきます。

【閉会】